

令和5年度 社会科 研究のまとめ

伊藤 公一・小林 祐貴・大西 弘員・神野 若菜

1. 研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体

(1) 小学校社会 4年「世界に誇る広島県の魅力」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○広島県の観光資源や観光地(主に外国人に人気の高い2つの世界文化遺産)などから、広島県の魅力と実際の実態とのずれによって、課題意識をもっている児童の姿があった。	・児童の広島県の特色のある地域の観光地や特産品等に対する関心と、それにもとづいた自分たちの考える観光の実態と実際の広島県における観光の実態とをつなげながら考えられるようにした。	・既有経験や学習経験と生活とのつながり
授業 実践力	○自分たちが暮らす広島県の魅力を意識しながら、問題意識へとつなげていた。	・児童が、自分事として広島県の観光における課題について問題意識をもてるようにした。	・自分事として課題意識をもてるようにするための支援
	●思考の流れを視覚化した板書をもとにして思考する姿があまり見られなかった。	・教師が学習内容における児童の思考の流れを視覚化できるように板書し、児童の思考を整理した。	・思考の深まりへの支援
	●これまでの学習をもとにして、具体的な学習内容をもとに持続可能な観光産業につなげているような発言が少なかった。	・児童が、学んだ知識・概念(内容知)を総動員して、広島県の持続可能な観光産業となるように課題解決に向けた児童の問題意識をファシリテートした。	・見方や考え方を広げる
授業 分析・ 評価力	○広島県の観光産業について問題意識をもった振り返りが多く見られた。	・振り返りの際に、本時の板書や資料をもとに、学習課題を意識できるようにする場面を設定した。	・本時の課題に応じた具体的な振り返りの視点の意識化

(2) 小学校社会 5年「わたしたちの暮らしと食料生産」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○自国の食料自給率に目を向けて考えていたため、他国の気候や社会情勢が及ぼす自国への影響に課題意識を強く感じていた。	・我が国の自給率の低い食材とその輸入様子が分かる「資料」と世界の様々な問題を記した「世界の出来事カード」を関係付けて考えていけるようにした。	・課題に主体的に向き合う姿 ・課題意識
	○学習の中での資料について、児童自身が望む資料を選択し、自分の仮説を裏付けるものとして使用しようとしていた。	・資料として用いたグラフや表の内容が説明的で簡略化されたものを取り扱い、児童が選択していきやすいようにした。	仮説を立てるための情報の精選
授業 実践力	○身近な食材と自給率との関係を楽しみながら、課題として捉えていた。	・状態が悪化する様子の動画資料を導入で示し、課題意識が高くもてるようにした。	課題との出会わせ方
	○仮説を立てて考えていく過程で、自分の考えを裏付ける資料を意欲的に探そうとする姿が見られ、児童同士の交流で思考の深まりが見られた ●資料内容の読み取り、選択の作業の多さに戸惑いを感じた児童が多く見られた。	・情報化過多な社会をイメージし、仮想インターネットとして、あえて資料を多く示し、情報を選択する必要性を感じられるようにした。 ・活動が停滞した場面では、「資料」と「世界の出来事カード」から読み取れることをそれぞれ整理して示した。	根拠を示した仮説を元にした思考。
授業 分析・ 評価力	○自国の食糧生産の課題を自分事として捉え、他国の様子に目を向けたり、課題解決に向けた取り組みを考えたりする記述が多く見られた。	・食料自給率に関して学習の中で考えたことをもとに、我が国の課題解決の方法を考えていけるような場とした。	・課題に主体的に向き合う姿 ・課題意識 ・新たな仮説

(3) 中学校社会 2年「ふるさと納税の功と罪 ～よりより制度にするためには?～」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○「ふるさと納税」の長所(功)と短所(罪)をマトリクスで整理することで、地方に恩恵のある制度であることをきちんと確認することができていた。	・「ふるさと納税」という耳なじみ且つタイムリーな話題をについて、その意義や目的などをおさえ、概念の習得の時間を丁寧に設けた。	・地理的分野の「日本の諸地域」で学習した「過疎・過密」や「少子高齢化」、「町おこし」など、既習内容との関連や繋がりが。
	○「ふるさと納税」の本来の目的が達成されていない場面があることがあること、とりわけ「返礼品」を用意したり、輸送コストがかかったり、逆に財政面で負担をかけていたことに目を向くことができた。	・「ふるさと納税」で地方公共団体に収入として入ってくる住民税以外に、他県へ「ふるさと納税」として流出する住民税があることから、それらを差し引きした金額が、マイナスに転ずる場合があることを確認した。	・見方や考え方を広げる
授業 実践力	○自分たちが暮らす広島県の人口減少率が一番高く、他の地方公共団体における内容ではないことを痛感していた。	・生徒が、自分事として広島県の人口減少の課題について問題意識をもてるようにした。	・自分事として課題意識をもてるようにするための支援。
	○「広島県」や「広島市」の魅力として、「カープ」や「サンフレッチェ」を「返礼品」として活用することや、県内に滞在する時間が長くなり、経済活動が活発になるためのアイデアを検討していた。	・私たちが生活する「広島県」や「広島市」に多く「ふるさと納税」として住民税が入ってくるために、持続可能且つどのように魅力的な返礼品を用意すれば良いか、考えるようにした。	・私たちの暮らす「広島県」や「広島市」が、他県に誇る魅力を持っていないかを考えさせる支援。
授業 分析・ 評価力	○「広島県」や「広島市」、「ふるさと納税」について問題意識をもった振り返りが多く見られた。	・振り返りの際に、本時の板書や資料をもとに、学習課題を意識できるようにする場面を設定した。	・本時の課題に応じた具体的な振り返りの視点の意識化

2. 研究についての考察

今年度の研究を通して、社会科本来の魅力に迫るための教師の資質能力を表1に示すように、再検討した。なお、下線部は新たに加筆した項目である。

表1 社会科本来の魅力に迫るための教師の資質能力

資質能力	社会科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>教材と授業デザインとの往復をしながら、より児童・生徒が興味をもつことのできる面白い教材をみつける力</u> ・ 「持続可能な社会」に向け、公民的資質を兼ね備えた児童生徒の育成を目指した目標を設定する力 ・ 児童・生徒が学習した内容を、日常の事象に関連付けたり、身近に感じたりすると共に、「当事者意識」を持ち自分ごととして捉え、「学んだことを実生活に落とし込むことのできる」目標を設定する力 ・ 児童・生徒の社会的事象に対する意欲・関心と、それに基づき、児童生徒の学びに上げる力 ・ 児童・生徒の視点に立って、知識・概念（内容知）の習得を基盤とした「わからない」を前提とした授業作りを行う力 ・ 学習した内容を児童・生徒が「多面的・多角的」に思考できるような、教科横断的な場面を設定する力
授業実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>児童・生徒と教材を共有する中で、考えたいような手立てを講じる力</u> ・ 児童・生徒が、自分事として（切実な）問題意識をもてるようにする力 ・ 教師が学習内容を視覚化できるように、児童・生徒の思考を整理する力 ・ 児童・生徒が思考する際に、ICTを活用したり、複数の異なる資料をタイミングよく提示したりする力 ・ <u>児童・生徒が多様な資料を読み取ることのできるような手立てを講じる力</u> ・ 児童・生徒が、学んだ知識・概念（内容知）を総動員して、持続可能な社会に向けて思考し、解決に向かうことのできるように、ファシリテートする力 ・ 児童・生徒の実態に応じて、授業展開を改善する力
授業分析・評価力	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックに基づいて評価を実施する力 ・ 児童・生徒の変容の見取りを通して、児童・生徒が目標を達成できたか否かを分析・評価する力。 ・ 児童・生徒の実態に応じて、授業を改善する力

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の変容を見取るためのルーブリックを設定したことで、資質・能力をもとづいた目標の達成状況をより客観的に把握することができた。 ・ルーブリック評価をもとにした児童・生徒の変容の様子から、資質・能力の妥当性や有用性を吟味することにつなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通したルーブリックの作成及び評価を通して、単元目標の達成状況の把握及び、資質・能力の妥当性や有用性を検討することが今後必要である。